



ハイエレメントのはしご登り。
2人で協力して、どこまで登れるか挑戦する。



助け合いながら、壁をのぼりあがるローエレメントの壁越え



下にいるメンバーは、命綱を握りしめながら、
動作を促したり、応援したりと上の2人に声をかける。

未来を担っていける人材へ

学力と人間力をバランスよく育てる

高尾の森わくわくビレッジにて、天候に恵まれた8月に、1泊2日のPA合宿が行われた。
仲間を信頼することの大切さや、チャレンジ精神について学んでいくPAを導入して今年で7年目。
海軍予備校を前身とし、“承認し合える環境づくり”を大事にする海城。
120年の伝統がある進学校でありながらも、先駆的な教育改革を進めている。



ハイエレメントのはしご渡り。
命綱と下からのメンバーのかけ声が頼り。



活動後は、インストラクターの下、振り返りが各グループで行われ結束を深める。

チームワークの力で、 1+1+1=3!!

「もっと右にいった」「あとちょっと。がんばれ〜」下にいる生徒たちが、命綱を握りしめながら、声をかけている。上へのぼっている子も、「もうちょっとロープを張って〜」と互いにコミュニケーションをとりながら、地上約10メートルの、ロープの上を端から端まで渡っていく。見ているこちらもドキドキだ。ゴールした時は、ワッと歓声があがった。地上に降りて来た2人に話を聞くと、「上にいる時は、頭が真っ白で怖かった」「下からの声と命綱だけが頼りだった」と話してくれた。専門のインストラクターの指導のもと活動していたのは、プロジェクトアドベンチャー(PA)という、仲間と共に身体を動かしながら、人間関係を構築していくというプログラム。蜘蛛の巣くぐりや、バランスを保ちながらコミュニケーションをとるジャイアントシーソーなど活動は多岐にわたる。ひとつひとつの活動の後には、すぐグループで振り返りが行われ、出来た点を褒め合い、もっとよくするために何ができるかを互いで言い合う。インストラクターの気づきの言葉をきっかけに、グループとしての結束力が高まっていくのが、活動を重ねるたびに目に見えて分かった。

「PAは、皆で何かをすることの醍醐味をわかりやすく体験できるプログラムですね。傍から見ている、自分がこうだと思っている

新しい紳士を目指して

生徒がそうではなかったと、いい意味で裏切られます。誰かに何かをやらせるイメージの子がリーダーシップを発揮したり、自分勝手だと思つた子が、さりげなく輪からはずれそうな子をフォローしたり」と話す学年副主任の本間先生。「普段から生徒にも、大人数で何かをやるってうざくて面倒くさいよな。でも、社会にでると、嫌でもいろんな人と接しながら皆で仕事をしていかなきゃならないんだ。その行き着くところに、醍醐味とか面白さがあるんだ」と、キレイごとではなく、皆でやることの意味などをちゃんと話します」とも話してくれた。教師たちも実際にPAも体験し、チームワークを高める。生徒を担任まかせにするのではなく、教科、部活の顧問という様々な角度から生徒をみて、チームとなってひとりひとりと真剣に向き合うのが海城流。生徒に分かってもらうまでとことん言い続ける。この日の朝は6時半起床。7時半朝食のスケジュール。朝食をとるために、生徒たちと一緒に列に並んでいると、「次は、8時20分に体育館だっけ?」「荷造り急がないとやばい!」という声が聞こえてきた。大抵こういう合宿では、「うるさい! 静かにしろ。次は、何時集合だから遅れないように!」という教師の大声がとんでくるもの。しかし教師が声を荒げなくとも、生徒各自でスケジュールを把握



バランスが重要となる、細いロープの上を渡っていく綱渡り。



し動いていた。体育館に5分前に大半の生徒が集合しているのに、びっくりした。「うちの学年は、特に、挨拶・返事・約束・提出物など当たり前のことを当たり前にやるということを厳しく言ってます」と話してくれた本間先生の話を思い出した。口をすっぱくして言う教師たちの言葉が、生徒にちゃんと届き、結果を表していた瞬間だった。

学校は社会の修行・シミュレーションの場。120年の伝統がある進学校でありながらも、先駆的な、時代にあった考え方や教育をする海城。仲間と協力して困難に取り組む貴重な経験から、教室では得ることのできない大切なことを学んだに違いない。



	Kalia
	Junior and Senior High School
Tokyo	

海城中学校・高等学校